

第 43 回全国伝統的工芸品コンクール

JAPAN'S TRADITIONAL CRAFT COMPETITION 2018

平成 30 年度 全国伝統的工芸品公募展

報 告 書



主 催： 一般財団法人 伝統的工芸品産業振興協会

後 援： 経済産業省・中小企業庁・日本商工会議所・全国商工会連合会・全国中小企業団体中央会

■ 開催概要

名 称	平成 30 年度全国伝統的工芸品公募展 第 43 回全国伝統的工芸品コンクール／JAPAN'S TRADITIONAL CRAFT COMPETITION 2018
開催主旨	長い間受け継がれた確かな伝統的技術・技法に、現代生活の様式に合致し、新しいアイデアや表現を取り入れた市場性のある伝統的工芸品を公募し、魅力あふれる製品の開拓を行う目的で行います。現代生活で使われるための需要を喚起し、国内だけではなく世界のマーケットにも通じる製品開拓を行います。
応募期間	平成 30 年 10 月 1 日（月）～ 11 月 20 日（火）
審査会	平成 30 年 12 月 12 日（水） 一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会／東京都港区
審査結果発表	平成 30 年 12 月 14 日（金）
応募総数	101 工芸品／175 点／応募者 158 名



審査員

増 村 紀一郎	委員長	東京藝術大学名誉教授 重要無形文化財「髹漆」保持者
御手洗 照 子	副委員長	有限会社 T-POT 代表取締役
宇 野 万貴子		株式会社 高島屋 MD本部 呉服部副部長 兼 日本橋店呉服部長
北 村 仁 美		東京国立近代美術館 主任研究員
栗 田 豊 滋		経済産業省 製造産業局 伝統的工芸品産業室 室長
黒 川 廣 子		東京藝術大学 大学美術館 教授
田 口 肇		地方独立行政法人京都市産業技術研究所 知恵産業融合センター 産業・文化連携担当課長
田 中 敦 子		工芸ライター
棚 町 敦 子		「美しいキモノ」エディトリアル スーパーバイザー
日 野 明 子		クラフトバイヤー
吉 田 龍太郎		株式会社プレスステージ ジャパン 代表取締役
安 藤 重 良		一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会 代表理事

（五十音順）

京竹工芸 「網代編セカンドバッグ」 細川 秀章 （京都府）



軽さ、通気性、適度な柔らかさなど従来のバッグにない機能もあり、優れたデザインで市場性の高い作品である。国際的なマーケットにも通用し、またユニセックスで幅広い層が使えることも評価された。内側にまでこだわりの見える優れた逸品である。



この度は栄誉ある賞を賜り、誠にありがとうございます。

工芸品を日常の中でもっと使ってもらいたいという思いから作り出した作品に、このような素晴らしい評価をいただけたことを大変嬉しく思います。



越前焼 「越前 陶・漆・紙」 司辻 健司 (福井県)



新しい質感で、福井県の工芸品を複合して違う素材を上手く仕上げている。

伝統の重さを感じつつ、全体の調和あるたたずまいを実現している。

この度は経済産業大臣賞を賜りありがとうございます。

今回のタンブラーは伝統を加味しつつ既成の枠を超えた色使いとデザインで勝負できる商品作りを意識しました。これからも越前の焼、漆、和紙の3産地のジャンルを超えた交流で地方の工芸に新しい風を吹き込む一助になればと思っています。



山中漆器 「うつろいカップ」 有限会社 浅田漆器工芸 (石川県)



シンプルながら軽やかで端正なデザインに魅力があり、程よいカラーバリエーションは現代のくらしにマッチする。大きさの違うサイズ感は入れ子にすることも可能で、日本の狭い事情に適した省スペースにも適している。

この度、経済産業省製造産業局長賞という大変栄誉ある賞をいただき光栄に思います。

季節をイメージした色合いで日常の食卓が明るく、食事の時間が楽しくなる
といいなと思います。



入 賞

中小企業庁長官賞

大阪切子 「波花盃」 安田 公子（大阪府）

ガラス、切子の特性を思いがけない効果で表現しており、使うことを楽しみにさせるデザインである。女性的で、手に取って生み出される万華鏡のような世界観が素晴らしい。



このような素晴らしい賞を頂けてとても光栄です。ありがとうございます。

この受賞を励みに、今後も、師から受け継いだ切子の技を大切に守り、真摯にガラスと向き合っていきたいと思います。



日本商工会議所会頭賞

九谷焼 「popping 飾台」 架谷 庸子（石川県）

モダンさと古典が一つに表現されている、市場性の高い作品である。使いやすさに配慮された造形は、パーティーや会席の器として実用性がある。



この度はこのような賞を頂きありがとうございます。公的な評価を受ける事はとても自信がつきますし、次への大きな力になります。これに驕ることなく更なる挑戦を重ねていきたいと思います。



全国商工会連合会会長賞

博多織 手織り八寸なごや帯「シンフォニー」

相澤 久美子 （佐賀県）

若い人の新しい風合いで伝統柄を仕上げており、伝統性の中に今の色づかいを感じる作品である。幅広い年代に向く作品ですが、ファースト着物にもちょうどよい。



気持ちが華やぐ場面を思い描いて織った帯が栄えある賞をいただき、感謝でいっぱいです。ありがとうございます。この賞を励みに、なお一層日常に映える作品づくりの探求に努めていきたいと思います。



全国中小企業団体中央会賞

甲州印伝 「更紗トートバッグ」

山本 裕輔 （山梨県）

着物を着たときに持つ大きめのバッグはあるようで無く、様々な着姿に合わせやすい色合いもよい。バリエーションの広がりを感じる作品である。



前回の日本伝統工芸士会会長賞に続き、二年連続で受賞を賜れましたこと大変光栄に思います。

当作品は従来の甲州印伝製品では見られない大容量の収納可能性を考え作りました。多くの方にご愛用頂けましたら幸いです。



一般財団法人 伝統的工芸品産業振興協会賞

本塩沢 「霞」 酒井 博（新潟県）

本塩沢らしさがあいつつも新しい工夫と色合いがよく、ユニセックスに対応できるデザイン性もさることながら、技術の優れた作品である。



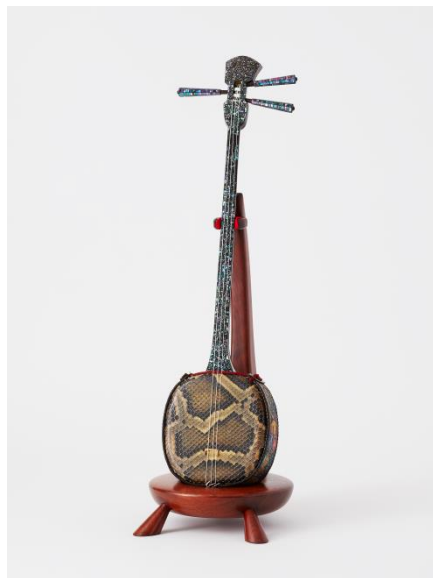
大ききの異なる亀甲縞を組み合わせせて織りあげています。光の当たり具合により中の色が変わって見えます。

これまでの本塩沢の技術をさらにグレードアップしています。男女問わずお召いただけます。

日本伝統工芸士会会長賞

琉球漆器 「総螺鈿三線」 小渡陽禧（沖縄県）

沖縄の鮮やかさ、おおらかさ、大胆さを体現しており、南国の風土ならではの元気な作品である。



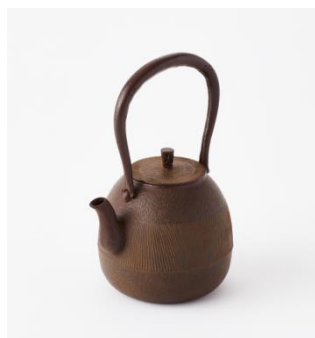
琉球三線は祝宴等沖縄のイベントには必須の楽器です。琉球漆器螺鈿細工の伝統的な技法を、楽器を通して広く身近に知って頂きたいと思います。

華やか演出が一層の幸せに繋がる事を願い受賞を励みに他の楽器にも挑戦したいです。

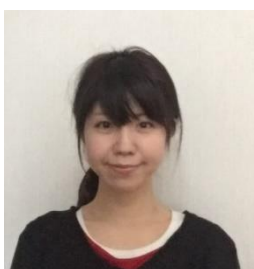


南部鉄器 「茶筌形茶筌模様」

佐々木奈美（岩手県）



女性らしさを感じられる鉄瓶であり、まとまりのある作品に仕上げられている。



日々修業に励む身ではありますが、このような賞を賜り嬉しく身の引き締まる思いです。選んでいただいたことに恥じないよう、よりいいものを探求しお客さまに届けていきたいです。本当にありがとうございます。

春日部桐筆筒 「桐六角疋寄せ五重」

小野留太郎（埼玉県）



クローゼットの台頭で筆筒が少なくなってきた中、現代の洋風の住居環境に合わせたも馴染みの良いデザインは、今を見据えた作品といえる。



普段の仕事で、人様に評価をいただく機会はないので今回励みになりました。またより高みを目指して精進してまいりたいと思います。ありがとうございました。

南部鉄器 「鉄瓶 Geometric square」

澤野諒和（岩手県）



繊細な弦と幾何学的な胴体のデザインがよく、IHに対応できる底の幅もよい。保温性のある機能性とデザイン性を兼ね備えた作品である。



鉄瓶の模様で新しい表現した。モダンな形や幾何学的な模様の中に南部鉄器の伝統的な機能美が表せたらと思いました。今回このような賞を頂けた事を大変嬉しく思います。これを励みにより良いものづくりをしていきたいと思っています。

甲州印伝 「ワインバッグ」

芹澤依子（山梨県）



割れやすいものをレザーで包み運ぶ乙な試みで、同じく山梨県の特産品であるワインとコラボレーションした取り組みが評価された。

この度は受賞を賜りまして、誠にありがたく存じます。

今回の作品は、日常にささやかな特別感を演出したく開発しました。これからも現代の生活に一層馴染む甲州印伝のあり方を模索していきたいと考えております。

入 選（88点）

織 物 （15点）		
桐生織	泉太郎	花鏡
蓮糸織	斉藤佳代子	古代素材と現代の融合 Ⅲ
村山大島紬	田代剛章	村山大島紬 マフラー
本塩沢	中島清志	越路絹緋 横段多色緋模様
本塩沢	(株)やまだ織	⑩ 本塩沢着尺「兆候」
十日町明石ちぢみ	吉澤武彦	⑩ 清流の調べ
十日町明石ちぢみ	吉澤武彦	⑩ 万華鏡
近江上布	向井純子	NOLEN
近江上布	山口礼子	だいだいおび
烏城紬	須本雅子	潮騒
本場大島紬	(有)興紬商店	羽衣
本場大島紬	たけがわ織物竹川忠克	らうらうじ
久米島紬	新垣勝秀	井 絋 3 玉
久米島紬	神里智江	マルグサーヒチサギー2 玉
首里織	ており TISSURI 比嘉浩子	首里織スライド式名刺入れ

染 色 品 （7点）		
草木染諸紙布	工房千倉 木島由美子	溪流
東京染小紋	石塚幸夫	山道割付柄
東京染小紋	五月女染工場	妖怪・琵琶牧々と琴古主
東京染小紋	廣瀬雄一	ミルキィウェイ
名古屋黒紋付染	武田和也	黒振袖 慮：re
有松・鳴海絞	堀田まき子	なつぐも
名古屋友禅	渡辺桂子	紗のドレス「マグノリア」

陶 磁 器 （14点）		
磁器	陣川愛	青白磁 蓋物
九谷焼	織田光恵	光の雫
九谷焼	谷口亘	白磁締カップ(鶴)
九谷焼	宮本雅夫	九谷色絵皿揃「モルフォ」
九谷焼	森岡希世子	和紅茶C & S
九谷焼	山口義博	青手睡蓮文角皿セット
九谷焼	山田登陽志	釉裏金箔彩(金箔ロマン)
常滑焼	梅原淳	急須コーヒー
常滑焼	鯉江昭萌	木ノ葉茶器揃え
桑名萬古焼	森工人	萬古盛絵点描文酒器セット
備前焼	鳴滝窯 安藤騎虎	備前焼コーヒードリッパー Tear Drip
伊万里・有田焼	梶原真理江	シリーズ野の花 フレグランスボトル
薩摩焼	新納虫太郎	SATSUMA round cup
伊万里・有田焼	矢鋪與左衛門	白磁報恩壺(二重蓋)

漆 器 （18点）		
蒔絵	間野亨	蒔絵・青貝帯留
津軽塗	白川明美	唐塗箸・皿皿セット「桜」・「夜桜」
茨城漆器	中本晋	千筋飯椀
鎌倉彫	青山常昭	八方刀痕文盛皿
鎌倉彫	奴田伸宏	屈輪文長方盆
村上木彫堆朱	小杉和也	四季の盛皿
山中漆器	東藤達也	杯 「雲龍」
山中漆器	針谷絹代	ふくろう蒔絵手元供養箱
山中漆器	針谷祥吾	カワセミ蒔絵 ネクタイピン
山中漆器	針谷祐之	蒔絵食卓セット「翡翠」「金魚」

輪島塗	藤野靖男	波濤蒔絵矢筈盆
輪島塗	吉田宏之	月皿
飛騨春慶	山崎賢治	藤蔓筒竹・飾台
京漆器	遠藤公譬	張抜一閑鷹之羽皿 五客
紀州漆器	谷岡公美子	赤根来塗サラダボール
香川漆器	中田陽平	象谷塗ビアカップ ペアセット
漆器	島川千世	端反三つ椀 溜
漆器	島川千世	端反三つ椀 木地呂

木 工 品 （8点）		
南部花形組子	舘功	書院衝立
つる細工	矢部晋也	山葡萄花結び編み 手提げかご
樺細工	経徳明夫	総皮茶筒みがき皮十字模様
南木曽ろくろ細工	酒井高男	櫛造り食籠
越前指物	長尾創	六瓢-mubyo-
越前箆笥	小柳範和	桐と空のからくり小箆笥
宮島細工	沖田要	食籠マグニフィカ
宮島細工	永谷早登	銀杏輪花 大皿小皿

金 工 品 （7点）		
南部鉄器	大村敏宏	鉄瓶「斜め縞霰」
南部鉄器	佐々木奈美	丸形 三つ子霰連なり文様
南部鉄器	佐々木奈美	茶筌形籠目模様
東京銀器	亘理立	純銀氷紋茶器
高岡銅器	(株)山口久乗	⑩ リンフローラ
越前打刃物	増谷泰治	レターオープナー リコルネ YOSEGI
堺打刃物	山本真一郎	銀 3 新型柳刃 210 mm

仏壇・仏具 （4点）		
東京仏壇	織田清春	旅する仏壇
金沢仏壇	(株)池田大仏堂	⑩ ウィスキーボトルケース
名古屋仏壇	武藤久由	thin～揃え～
京仏具	丸三仏壇店	祈り ～扇形～

文 具 （2点）		
播州そろばん	高山辰則	家内安全そろばん
熊野筆	實森将城	黒と赤に FUDE

貴石細工（1点）		
甲州水晶貴石細工	土屋隆	水晶盃【雪華舞う】

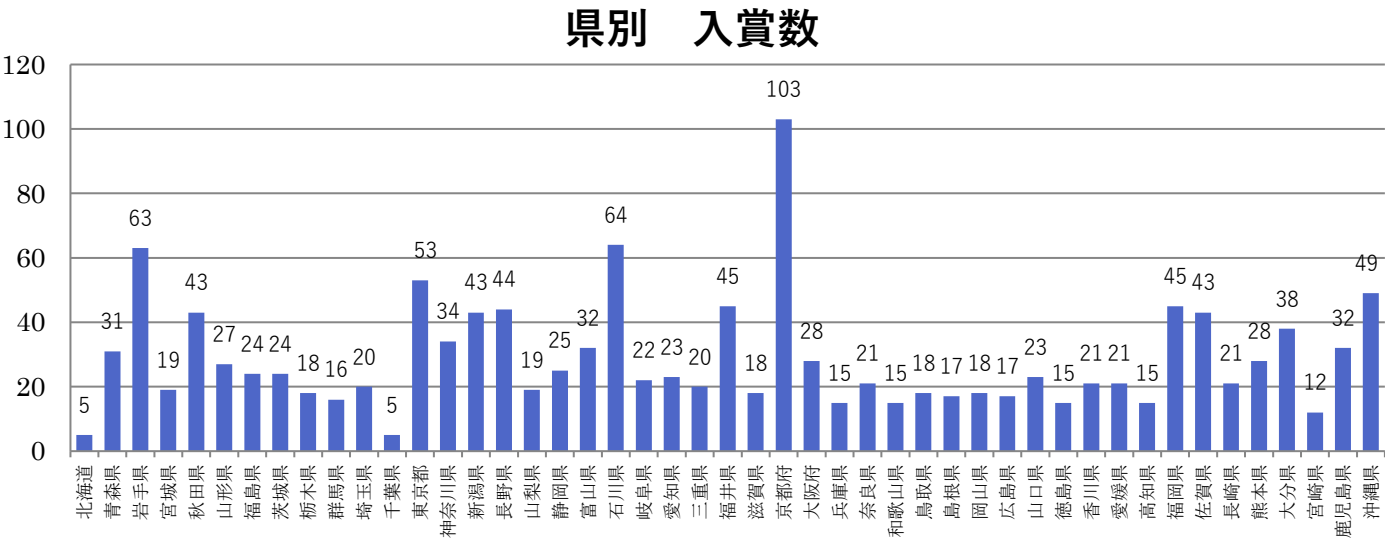
人 形（3点）		
江戸木目込人形	柿沼正志	羽衣伝説 香りと融合
江戸木目込人形	金林健史	華毯
博多人形	緒方恵子	七宝亥～Reversible～

諸 工 芸（9点）		
囲碁盤	吉田寅義	七寸天枰
東京七宝	畠山弘	eternal
如雨露	根岸洋一	Water Can
京扇子	豪阿弥	勾扇
京扇子	米原康人	五明扇 無常
京表具	木南拓也	折灯華（大輪）
京表具	田中善茂	「反故 Hougu」
金彩工芸	上仲昭浩	本草製道中財布 姫路黒枝革 竹節麻の葉銀
薩摩切子	中願寺舞	涼波

⑩ =プロデューサー出品

業種	応募作品				応募者			
	指定	非指定	産地計	出品数	男性	女性	企業/団体	計
織物	13	5	18	29	10	14	4	28
染色品	4	1	5	9	4	3	1	8
その他繊維製品	1	2	3	3	3	0	0	3
陶磁器	8	3	11	29	17	6	1	24
漆器	11	3	14	31	22	4	2	28
木工品	5	6	11	16	13	1	0	14
竹工品	2	1	3	5	4	1	0	5
金工品	6	1	7	15	10	1	1	12
仏壇・仏具	4	2	6	7	4	0	3	7
和紙	1	0	1	2	1	0	1	2
文具	2	0	2	2	2	0	0	2
貴石細工	1	0	1	1	1	0	0	1
人形・こけし	2	0	2	4	2	1	0	3
諸工芸品	6	10	16	21	15	5	0	20
材料・用具	1	0	1	1	0	0	1	1
合計	67	34	101	175	108	36	14	158
指定＝経済産業大臣指定伝統的工芸品、非指定＝経済産業大臣指定を受けていない工芸品								

現在までの受賞数



平成30年12月12日、30年度全国伝統的工芸品公募展の審査会が（一般財団法人）伝統的工芸品産業振興協会「伝統工芸 青山スクエア」で開催されました、今回で43回を数えます。

本年の応募総数は175点、昨年は165点でしたのでより多くの作品が集まりました。本公募展の審査委員は学識経験者として国公立・美術館の学芸員が参加して、専門部門として木竹品、金工品、陶磁器、染織、漆器などの審査を担当しました。バイヤー部門として百貨店の呉服部長、経済産業省伝統的工芸品産業室長に、工芸ライター、クラフト品などのバイヤーが担当しました。

審査基準は本公募展募集要項に記載された、五つの留意点を確認しました。審査方法は全応募作品から入選工芸品を選出し、これにより102点が入選となりました。

この入選工芸品の中から受賞工芸品を選出する作業に移り、受賞作品の選考に当たっては以下の項目についてチェックをしました。

- ①「技術・技法」は 製品としての完成度があり、製造技術が範となる水準であるもの
- ②「デザイン」は 作り手の独自のアイデアを生かした意匠や技術が見られ、美的な要素を備えているもの
- ③「機能性」とは 見て愛でる造形物ではなく用途があり、また用途に即した耐久性が考慮され、
取扱いに細心の注意が必要としないもの
- ④「市場性」とは 現代の暮らしの中で存在感を有し、また多くの人が享受できる価格帯であること

投票の結果、内閣総理大臣賞には、この4個の項目をほぼ満点にて獲得した優秀な作品として 細川秀章氏（京都府）の京竹工芸「網代編セカンドバッグ」が選出されました。

従来からある編み物のバッグと比べても、まず見た目が美しい、女性だけでなく、男の自慢の一品として持ちたくなる優品である。

次は経済産業大臣賞の作品である、司辻健司氏（福井県）の越前焼「越前・陶・漆・紙」のタンブラー（大型のコップ）です。名前の通り器を越前焼で作る、地元である河和田で漆を塗る、越前和紙を糊漆で貼る、紙肌を生かした漆塗りで仕上げたそれぞれの持ち味を生かした作品である形は単純だが美しい越前が誕生した名品である。

三番目の経済産業省製造産業局長賞の（有）浅田漆器工芸の山中漆器（石川県）の「うつろいカップ」は山中漆器の木地造りの特徴である、樺材を縦木取りしたのち、轆轤で縦挽きした木地に漆塗りした器である。単純な形と明るい色合いにデザインされたお洒落なカップに仕上げた逸品である。以上の3作品は①②③④の要件項目を満たした作品になります。

次の中小企業庁長官賞の作品は機能性と市場性が高く評価された、安田公子氏（大阪府）の大阪切子「波花盃」が選出されました。

日本商工会議所会頭賞の作品にはデザイン性と市場性が評価された、架谷庸子氏（石川県）の九谷焼「Popping 飾台」が選出されました。

全国商工会連合会会長賞の作品にはデザイン性と機能性が評価され、相澤久美子氏（佐賀県）の博多織 手織り八寸なごや帯「シンフォニー」が選出されました。

全国中小企業団体中央会賞の作品には技術・技法性とデザイン性が評価された、山本裕輔氏（山梨県）の甲州印伝「更紗トートバッグ」が選出されました。

一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会賞の作品には技術・技法性と市場性が評価された、酒井博氏（新潟県）の本塩沢「霞」が選出され、日本伝統工芸士会会長賞の作品には技術・技法性と機能性が評価された、小渡陽禧氏（沖縄県）の琉球漆器「総螺鈿三線」が選出されました。

若手奨励賞には若手の挑戦を奨励、工芸品の新たな可能性を秘めた作品として、佐々木奈美氏（岩手県）の南部鉄器「茶笥形茶笥模様」と小野留太郎（埼玉県）の春日部桐箆筒「桐六角榫寄せ五重」が選出されました。

バイヤー賞には市場性が高いとしてバイヤーに評価された、澤野諒和氏（岩手県）の南部鉄器「鉄瓶 Geometric square」と芦澤依子（山梨県）の甲州印伝「ワインバッグ」が選出されました。

以上、受賞の方々おめでとうございます、日頃の精進と研究が実を結んだと思います。

いま、日本で「伝統工芸」と呼ばれている工芸が二つ存在します、ひとつは1950年（昭和25年）制定の「文化財保護法」によるものと、1974年（昭和49年）制定の「伝統的工芸品産業の振興に関する法律（伝産法）」のものです。

この伝統工芸を川に例えて考えてみましょう。

多くの川の水源は高い山の周辺です。前者の伝統工芸は（公益社団法人）日本工芸会には正会員、準会員、研究会員の総数が2427名を擁する我が国最大の工芸作家の集まりといえます。この会に所属する会員たちは一人の作家として山の頂を目指しています。

一方で後者の伝統工芸は川に例え解説すると、この川は川幅を広げ地域に住む人びとの生活や文化を潤しやがては河口から海に流れます、海は世界の国々につながりを持っています。

次回の公募展には国際的にも通じるデザインと機能を保有し、市場性の高い出品作品を期待します。



ポスター・チラシ



平成30年度 全国伝統的工芸品公募展 応募期間:平成30年10月1日(月)～11月20日(火)

手わざ募集



内閣府 副官30万円 経済産業大臣賞 副賞20万円 ほか
後援:経済産業省、中小企業庁、日本商工会議所、全国商工会連合会、全国中小企業団体中央会 主催:一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会
お問い合わせ:公募展事務局 〒107-0052 東京都港区赤坂8-122 TEL:03-5785-1001/FAX:03-5785-1002 <http://kougeihin.jp/>

D M



全国各地より、温故知新の作品たちが集結。

平成30年度 全国伝統的工芸品公募展

入選作品展

主催:一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会

後援:経済産業省、中小企業庁、日本商工会議所、全国商工会連合会、全国中小企業団体中央会

平成30年
12月20日 から
平成31年
1月9日 まで
(12月29日～1月3日まで休展)

授賞式

平成 30 年度 全国伝統的工芸品公募展の授賞式を受賞者 13 名にご参加いただき、執り行いました。

日 時 : 平成 31 年 1 月 18 日 (金)

場 所 : 明治記念館 「丹頂」



一般財団法人 伝統的工芸品産業振興協会



〒107-0052 東京都港区赤坂 8-1-22

TEL 03-5785-1001 FAX 03-5785-1002

kikaku@kougei.or.jp <http://kougeihin.jp>